

各構想区域の医療課題

以下は、事務局で作成した例示であり、必要に応じて追加等しながら、地域の医療課題を明確にする。

名古屋・尾張中部	<ul style="list-style-type: none"> 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。 人口が多く、面積も広いこと、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。 回復期機能の病床を確保する必要がある。
海部	<ul style="list-style-type: none"> DPC病院は2病院のみで、構想区域内の入院実績も少ないため、区域内に十分な急性期入院機能を有しているとは言い難い状況で、高度な集中治療が行われる特定入院料の病床も少ないため、緊急性の高い救急医療について、名古屋・尾張中部構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。 疾患別の受療動向において、患者の多くが名古屋医療圏に流出しているが、成人肺炎や大腿骨骨折など回復期につなげることが多い疾患については、構想区域内で対応していく必要がある。 回復期機能の病床を確保する必要がある。
尾張東部	<ul style="list-style-type: none"> 大学病院が2病院あり、ドクターヘリ事業の基地病院がある等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。 回復期機能の病床を確保する必要がある。

尾張西部	<ul style="list-style-type: none"> 県内病院における医師不足の影響に関する調査結果（平成27年6月末時点）によると、診療制限をしている病院数は8病院あり、区域内病院数（19病院）に対する割合が42.1%と高くなっており、その状況を分析し、対応を検討する必要がある。 回復期機能の病床を確保する必要がある。
尾張北部	<ul style="list-style-type: none"> 回復期機能の病床を確保する必要がある。
知多半島	<ul style="list-style-type: none"> 構想区域内のDPC病院は3病院あるが、他の区域と比べ入院実績が少ないことから、区域内に十分な急性期入院機能を有しているとは言い難い状況で、高度な集中治療が行われる特定入院料を届けている病床数も少ない状況である。緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。 疾患別の受療動向において、患者の多くが名古屋医療圏に流出しているが、成人肺炎など回復期につなげることが多い疾患については、構想区域内で対応していく必要がある。 県内病院における医師不足の影響に関する調査結果（平成27年6月末時点）によると、診療制限をしている病院数は5病院あり、区域内病院数（19病院）に対する割合が26.3%と高くなっており、その状況を分析し、対応を検討する必要がある。 回復期機能の病床を確保する必要がある。
西三河北部	<ul style="list-style-type: none"> 回復期機能の病床を確保する必要がある。

<p>西三河南部東</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度急性期、急性期の入院患者の自域依存率が低い状況にあり、急性期についてはできるだけ構想区域内で対応していく必要がある。 ・ 構想区域内の DPC 病院は 4 病院あるが、入院実績の多い病院は岡崎市民病院のみとなっている。緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。 ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。
<p>西三河南部西</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。
<p>東三河北部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無医地区及び準無医地区を抱えており、また、面積が広大なため救急搬送所要時間も長くなっており、医師を始めとする医療従事者の確保や救急搬送体制及び在宅医療の充実などにより、へき地医療を確保する必要がある。 ・ 県内病院における医師不足の影響に関する調査結果（平成 27 年 6 月末時点）によると、診療制限をしている病院数は 2 病院あり、区域内病院数（6 病院）に対する割合が 33.3%と高くなっており、その状況を分析し、対応を検討する必要がある。 ・ 救急医療体制の充実と在宅医療の充実のため、医師をはじめとする医療従事者の確保と区域内的の医療機関同士の連携を更に進める必要がある。 ・ 重篤な救急患者の救急医療や周産期医療の確保が区域内的の医療機関だけでは困難な状況となっており、東三河南部構想区域との連携を更に進める必要がある。 ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。
<p>東三河南部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 療養病床が多いため、不足する機能への転換を図るとともに、在宅医療への移行を進める必要がある。 ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。